

# 第1章

## 「鉄道ファン実態調査」結果と分析

本項では、番外的になるが2010年9月にインターネット上でデータ収集のために行ったアンケート調査の概要と結果、そして分析を取り扱う。しかし、自由記述欄や回答者個人のプライバシーに関する質問項目、結果などは省略して著述している。また、質問の性質において適宜順番が入れ替わることに留意されたい。

### 1. 「鉄道ファン実態調査」の質問項目

- ・問 1. 年収はおいくらですか？
- ・問 2. 鉄道趣味に費やすお金は月でおいくらですか？  
0～5000円    5000～1万円    1～2万円  
2～5万円    5～10万円    10万円以上
- ・問 3. 主にどのような領域で鉄道趣味を行っていますか？ 該当する番号を選択して下さい。  
乗車    撮影    収集    模型    マルチメディア（音・動画）  
考古学・史学    廃止線・未成線探訪    資料・交通規則  
グルメ    その他
- ・問 4. 鉄道趣味を始める、あるいは復活するきっかけとなった出来事は何か？ ご自由にご記入下さい。
- ・問 5. あなたは、ふだんどのような手段で鉄道趣味活動を行っていますか？ 該当する番号を選択して下さい。  
乗車    撮影    収集    模型製作・走行    音・動画収集  
資料・雑誌購読    廃止線・未成線探訪・調査    資料・規則調査  
グルメ    サイト運営（ブログ・HP・掲示板）  
鉄道趣味団体（鉄道友の会など/サークル）への参加    その他
- ・問 6. 鉄道趣味歴は何年になりますか？  
1年未満    1～2年    2～5年    5～10年    10～20年    20年以上

・問 7. 中断期間などはありましたか？

ある ない

・問 8. あなたは、鉄道以外に何かご趣味がおありですか？あればお書き下さい。

・問 9. あなたは、自分が鉄道ファンであるということを友人・同僚など近い関係の人に伝えてありますか。

はい いいえ

・問 10. 失礼ですが、結婚はされていますか？結婚されている場合、奥様・ご主人様は鉄道趣味に理解を示されていますか？

結婚していない 結婚しており、相手からの理解を得ている

結婚しているが、相手からの理解は得られていない

・問 11. 「鉄子」(女性の鉄道ファン)という言葉をご存じですか？

知っている。知人にそのような者がいる

知っているが、知人にはいない 知らない

・問 12. 昨今「鉄道ブーム」と社会では言われていますが、「鉄道ブーム」は実際に起きていると思われませんか？

思う 思わない

・問 13. また、「鉄道ブーム」によって、ご自身の鉄道趣味、環境に変化は現れましたか？

現れている 現れていない

・問 14. 難しい質問ですが、あなたにとって鉄道趣味とは一体どういったものですか？ ご自由にご記入下さい。

・問 15. 最後の質問です。今後も鉄道趣味は続けますか？

はい いいえ

\* 回答者情報

・性別

・年齢

・職業

・都道府県

## 2. 「鉄道ファン実態調査」の結果と分析

### (1) 鉄道趣味とお金

まず、「項目1：鉄道ファン個人の環境に関する項目」と称して、鉄道ファンの年収と、それに対して一ヶ月で鉄道趣味にどれぐらいの支出を行うのかに関連性があるのかを調査した。問1は年収、問2は鉄道趣味に費やす金額を選択式でたずねた。

回答者全体60人のうち、4割程度にあたる26人が年収を0～200万円と回答したが、この回答者の多くは学生であった。しかし、この他の選択肢と年齢、職業とはとりたてて強い関連性は見られなかった。

つぎに、問2：一ヶ月に鉄道趣味に費やす金額の結果をしてみる。以下の円グラフで見るように、0～5000円が全体の38%、5000～1万円が26%、

1～2万円が28%であった。が全体の4割近くをしめたものの、5000円以上という視点で見れば、6割を超えている。また、と回答したのは年収が0～200万円の学生に多かったが、一方で年収が1000万円以上の回答者も

と回答しているなど、ばらつきも見られた。学生が鉄道趣味に費やせる金額はおおむね5000円以下であるということになるが、所得を得る年齢になると、使う金額は家族など諸要因に左右されるようである。

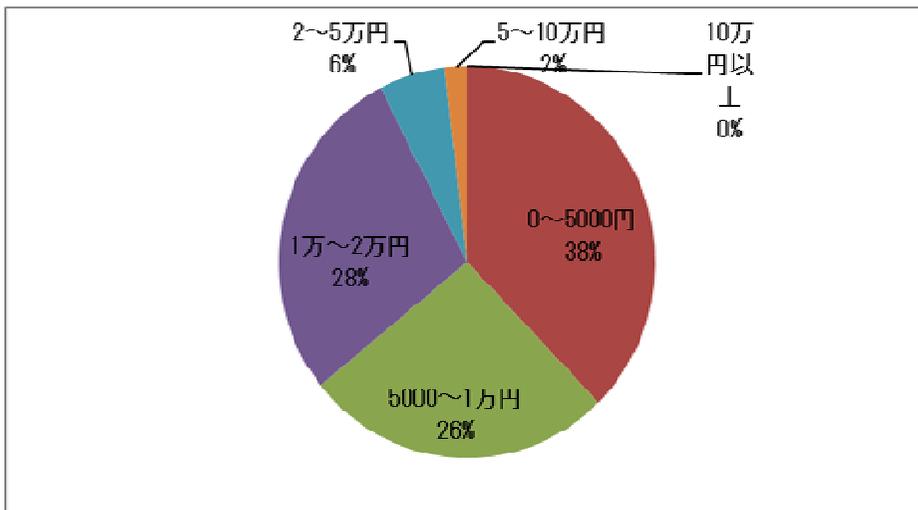


図 2-1-1 鉄道趣味への月額支出分布

## (2)鉄道趣味活動

では、鉄道ファンはどのような趣味活動を行っているのだろうか。第1部第2章で「鉄道ファンの分類」を行ったが、本項ではそれを踏まえての調査を企図し、おおむね鉄道趣味10個の項目に分類した。

また、問3、問5では質問の内容がほぼ重複していたためこの質問項目では問3での回答を中心に分析している。以下は分類した10個の項目である。

- 乗車（鉄道路線、車輦に乗車すること）
- 撮影（鉄道車輦、施設を撮影すること）
- 収集（鉄道に関する切符や部品などを収集して楽しむもの）
- 模型（Nゲージ、H0ゲージ、0ゲージなどを中心に模型の製作や購入すること）
- マルチメディア（鉄道に関する音声、動画を撮影すること）
- 考古学・史学（鉄道の歴史や遺構を調べること）
- 廃止線・未成線探訪（過去に廃止された鉄道路線、あるいは計画・工事のみで終わった鉄道路線を探訪、調査すること）
- 資料・交通規則（鉄道に関する各種資料や規則などを調査すること）
- グルメ（駅弁、駅そばなどのグルメを調査・堪能すること）
- その他

複数選択可であったので、単純にどの領域が多いという判断は難しい。しかしながら、回答者の90%以上がまず「乗車」を選択した（図2-1-3参照）。すなわち、「乗車」は鉄道趣味活動の基本であるということになる。

次に、選択割合が多かったのは撮影で、52%の人が選択した。回答者の中には、いくつかのコンテストでの入賞歴を持つ方もおり、撮影が鉄道趣味活動の中でも重要な地位を示していることを示唆している。

これらの撮影をする鉄道ファンの回答を辿っても、多くは乗車もしており、撮影専門で乗車はしないという回答を選んだのはわずかであった。

次に、ほぼ同数の選択率であったのが模型である。これは50%の人が選択し、ほぼ半分の回答者が模型の製作・走行を行うことが明らかになった。このアンケートでは、縮尺・ゲージの指定はしていないが、「模型」と回答したのは比較的若年層が多かったためNゲージ・H0ゲージが中心であると思われる。

更に、個人の回答を追跡していくと、乗車及び、撮影と模型を兼業している人も多く、模型製作の資料としての観点から、鉄道写真を撮影する回答者がいることが明らかになった。

こうした関係の中で、全体から見れば撮影と模型の選択率がほぼ 50%で、この分野が鉄道ファンのな分水嶺になるようである。

やや不可解であったのは、考古学・史学を回答した鉄道ファンと の廃線・未成線探訪を回答した鉄道ファン、さらには 資料・交通規則を回答した鉄道ファンの間強い因果関係が見られないことである（ひとりひとりがどのような回答をしているかは、図 2-0-3 を参照されたい）。

と、あるいは と は強い関連性がある項目だが、6, 7, 8 を選択した回答者の多くはいずれか 1 つのみの回答に終わっている。この場合、選択肢の設定に問題があったか。

また、選択合計は 203 であり、1 人あたり平均 3 ~ 4 個である。予算支出との関連性はあまり見られなかったので、バランス良く配分をしているか、「この月は模型の購入、来月は鉄道旅行」というように月ごとに振り分けている可能性がある。また、撮影に関しても、地元の車輜・駅などを集中して撮影するという回答者もあり、手近な対象をじっくり追求するという形態の鉄道趣味では支出もさして大きくはならないが、充実した趣味を行えることが分かった。

更に、こうした回答を受けて、支出と特定の領域が結びつくかを調査するため、データの解析を行ったが、これも特定の領域との関連性はなかった。社会人層になると、「模型」を中心領域に挙げる回答者はやや支出が多い傾向があったが、とくに目立つものではなかった。また、趣味の中心領域を多数挙げる回答者の支出が多いわけでもなかった。

趣味活動の中心領域	選択した人数	選択した割合
①乗車	56	93%
②撮影	31	52%
③収集	17	28%
④模型	30	50%
⑤マルチメディア	14	23%
⑥考古学・史学	8	13%
⑦廃線・未成線探訪	13	22%
⑧資料・交通規則	19	32%
⑨グルメ	10	17%
⑩その他	5	8%
計	203/600	

表 2-1-2：鉄道趣味中心領域選択状況

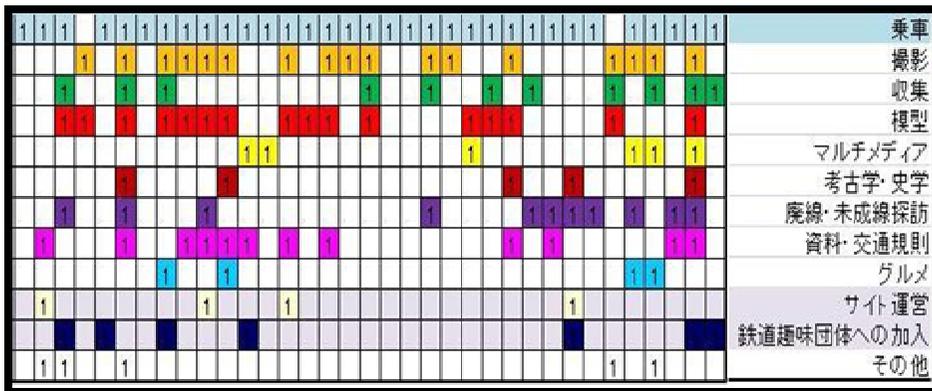
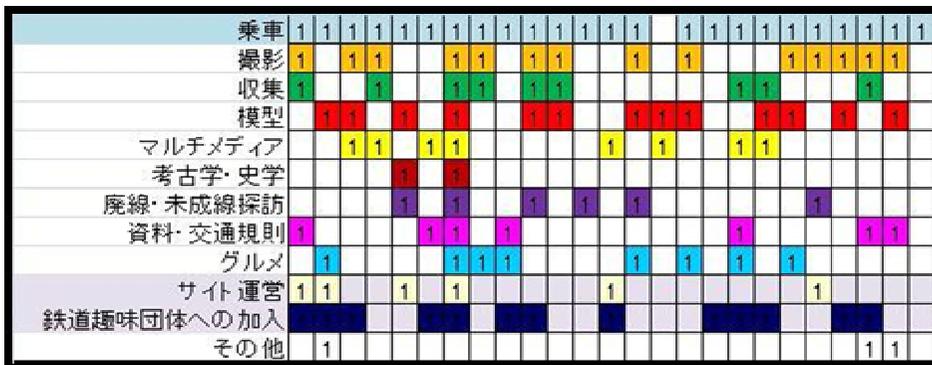


図 2-1-3：個人回答状況（一部改変している）

### (3) 鉄道趣味歴

次は、鉄道ファンが鉄道趣味をどれくらい継続して行っているのか、という疑問の下に行われた鉄道趣味歴調査である。

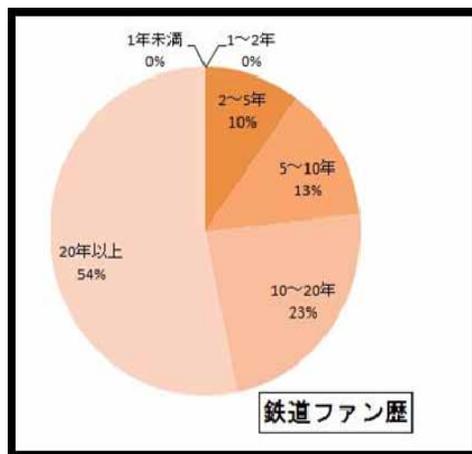


図 2-1-4 鉄道趣味歴分布図

上図では、1年未満、1～2年が0%、5～10年が13%、10～20年が23%、20年以上がなんと54%を占めた。20年以上が圧倒的に多く、次点の10～20年を加えると合計で80%弱であり、この調査に回答を寄せた人の多くが10年以上の鉄道ファン歴であるということである。

では、この結果は年齢層と結びつくのだろうか。

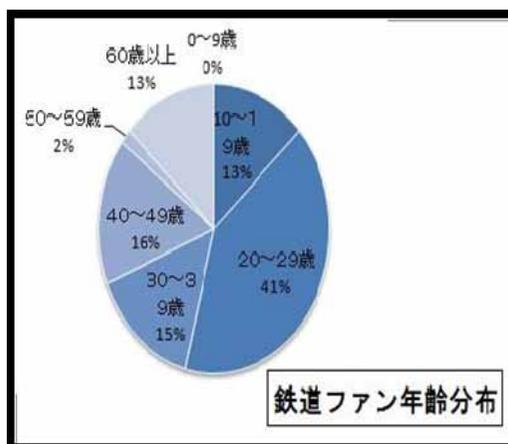


図 2-1-5 鉄道ファン年齢分布

年齢分布では、10～19歳が13%、20～29歳が41%で全体の54%を占めた。これは、一橋鉄研公式Twitter<sup>1</sup>、公式ホームページ、公式ブログ、さらに一橋鉄研・如水鉄路クラブのメーリングリストなどで回答を呼びかけた結果、Twitterのアカウントを持つ他大鉄研（東京大学・関西大学など）や各鉄研のメンバーが回答に協力してくれたためである。

このアンケートでは、回答者の60%近くが、20代までであり、50代を除いて、あとの年代はバランス良く分布している。つまり、中高年が多いため鉄道ファン歴が長い回答者が多くなる、ということではあまりないようだ。

回答者情報を追跡していくと、20代後半から60代までの回答者の90%以上が鉄道ファン歴20年以上だと回答している。また、10代後半から20代前半の多くが10年～20年と回答している。それ以外の回答者層は、高校・大学の鉄道研究会などへの入会で初めて鉄道趣味を本格的にスタートさせたものがおおい。こうしてみると、鉄道ファン歴は年齢とほぼニアリーイコールになっている。やはり、鉄道趣味というのは幼児体験からスタートし、大人になっても継続的に行っている趣味のようである。

#### (4) 鉄道ファンの趣味的副業

鉄道ファンは、鉄道趣味以外にどのような趣味を持っているのだろうか。こちらも、複数回答可の設問であったため、幅広い回答が見られた。適宜回答を編集し、図表化したのが次頁である。

まず、数が多い回答順に例示すると（内は選択者数）、ドライブ（15）、音楽（鑑賞・演奏含む、12）、旅行（9）、アニメ（9）、町歩き・ハイキング・サイクリング（8）、読書（5）、飛行機（5）であった。次頁の表で分類しているように、鉄道以外の趣味にも分類できる程度の傾向があった。

大まかに分けると、読書・音楽などの一般的な趣味、アニメ・マンガ、ゲームのおたくな趣味、ドライブ（自動車）・飛行機・バス・船などの交通系の趣味、旅行・ハイキングなどの旅行系。スポーツ系の趣味、軍事・歴史・地図系の趣味、園芸や工作などの趣味、そしてその他である。

---

<sup>1</sup> Twitterとは、140字以内の「ツイート（つぶやき）」への投稿・閲覧を通して、登録者同士がコミュニケーションできるインターネットツールである。

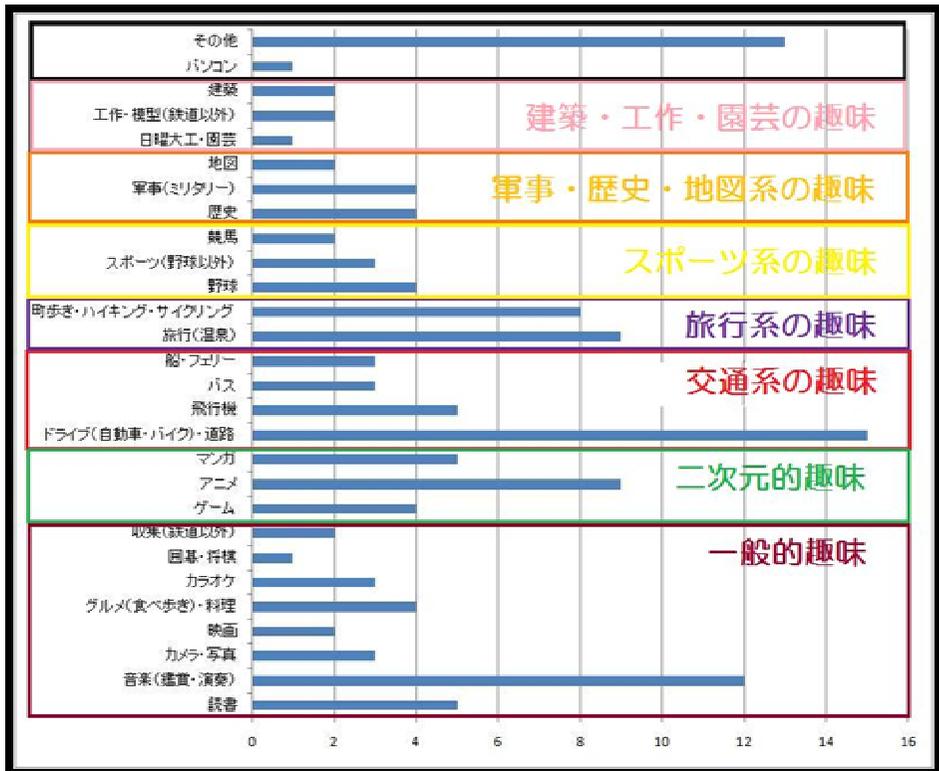


図 2-1-6 鉄道領域以外の趣味

鉄道と同様の交通機関を、鉄道以外の趣味にする鉄道ファンも多い。自動車はもちろん、航空機、バス、フェリーなどは季刊誌・月刊誌も発行され、鉄道雑誌よりも販売している書店は少ないが、大きめの書店に行けば手に入れることができる。形態は違っていても、多様なバリエーションと運行形態などが近似しているバス・航空機、フェリーなどは鉄道と重なることも多く、一部の鉄道研究会ではバス・航空機の分科会をもっている。

ドライブ、自動車との回答も目立った。この回答者層は、学生よりも社会人に目立った。

旅行、ハイキングなどの旅行系の趣味が多いのも特徴である。旅行と同時に「乗り鉄（鉄道路線、車輦の乗車）」を行う鉄道ファンが多いのだろうか。

建築・工作なども鉄道ファンのには、鉄道趣味領域の延長という理解も出来る。

一般的な趣味としてあげた、読書・音楽・映画などは年齢層に偏りなく広

く分布している。一方で、年齢、世代的な偏りが見られた領域がある。

それは、アニメ・マンガ・ゲームに代表される趣味領域である。

回答者全員が、20代半ばまでの人間で、多くは学生であった。中には、具体的な作品名を挙げた回答者もあり、この領域に対する回答者の、関心度の高さを示したものもあった。

このサブカルチャー趣味領域と鉄道趣味領域とのクロスフィールドに関しては、第4章を参照のこと。

#### (5) 鉄道ファンの私的・社会的環境

私事ではあるが、私は中学・高等学校・大学と現在まで足かけ8年にわたって鉄道研究会に在籍している。そのため、私の家族・友人・知人・恩師などは、私に会うと最近あった鉄道話や路線、列車の話振ってくる。私自身、それをありがたく受け取り、鉄道に興味のない人にも比較的わかりやすい話題をしたりする。これらは、他の会員にも共通して言えることである。一方で、政治・歴史学者の原武史氏は、自身の著書『鉄道ひとつばなし2』の序にて、次のように語っている。

<前略> 四年前に『鉄道ひとつばなし』を出したとき、最も多かったのは「原さんってこんなに鉄道に詳しいとは知らなかった」という反応であった。

そこには、いくぶんかの揶揄が含まれているのが察せられた。

<中略> 鉄道に造詣の深い作家の阿川弘之さんも、私との対談の場で、「時刻表に興味があるなんて小説家のカスと思われてやしないかとコンプレックスを持っていた」「吉行淳之介には、あいつ女にモテないからあんなもん（時刻表）ばかりめくっていると、さんざん言われた」などと話されていた。

このように、鉄道ファンが社会で受ける認識には暖かい（生温かい？）ものと、冷たい（醒めた）ものがある。しかし、鉄道ファンはひるまない。次表は、「自分が鉄道ファンであることを関係の近い人間に伝えているか」という設問に対する回答状況を示したものである。

はい	いいえ	無回答
56	3	1

表 2-1-7 鉄道ファンであることを関係の近い人間に伝えているか

この設問で、近い人間とは、家族・同僚などを念頭に入れているが、回答者の9割以上が伝えている、と回答している。

再三述べた通り、大学鉄研の協力を受けており、回答者の中に鉄研会員が多く含まれるため数値がおかしいようにも感じられるが、学生以外で考えても9割近くがやはり「はい」と答えている。

鉄道ファンはとにかく自分が鉄道ファンであることをアピールしておくことを「よし」としているようである。

これと深く結びつくと思われるのが、鉄道ブームに関する印象を尋ねたものである。

鉄道ブームは実際に起きているか	
起きていると思う	30
起きているとは思わない	29
分からない・無回答	1

表 2-1-8 鉄道ブームは実際に起きているか

起きていると思う、と思わないと回答はほぼ拮抗している。回答者内訳を見ると、学生10(24人中)・社会人20(36人中)となり、割合では社会人のほうが多かった。学生に対して、社会人の方が活動コミュニティが広く、多様な人々と交流している結果と言えるのだろうか。

鉄道ブームによって、自身の環境に変化が現れたか？	
現れた	19
現れていない	41

表 2-1-9 鉄道ブームによる環境の変化

しかし、上の表を参照する限り、鉄道ブームが実際に鉄道ファンに何らかの影響を与えていることは少ないようだ。こちらは、学生5・社会人11であ

る。つまり、ほぼ半数が実際に環境に変化があったと考えている。具体的に何か事例があったのだろう。ごく一部だが、本人が鉄道ブームによって鉄道ファンになった例もある。なお、鉄道ブームは起きていると思わないのに影響が現れている、という回答が3名あった。鉄道ブームに関する考察は第2章を参照されたい。

続いて、鉄道ファンの家庭における状況はどうだろうか。

結婚していない		36
結婚している	配偶者の理解を得ている	20
	配偶者の理解は得られていない	4

表 2-1-10 鉄道ファンの家庭内における状況

結婚していない、という回答者が6割を占めた。とはいえ、この数字にはあまり意味が無く、ほぼ年齢相応のデータが出ている。興味深いのが配偶者（家族）の理解を得ているかどうかである。回答者の多くが理解を得ていると回答した。一方で、理解を得ていないという回答を寄せた回答者は比較的高所得者であり、また、特別に鉄道趣味に対する支出が多いとも思えなかった。更に、鉄道以外の趣味に偏りがあるということもなかった。アンケート紙面では窺い知ることが出来ない家庭の事情というのがあるのだろうか。

#### (6) 鉄道ファンの男女比

鉄道ファンは圧倒的に男性が多い。あとで本アンケートによる結果を発表するが、まずは女性鉄道ファン「鉄子」に対する認識度合いを調査した。

まず、鉄子という単語を知らない人はいなかった。つぎに、実際に知人に実際にいるかどうかを尋ねてみた。37%が、「知人にそのようなものがある」と回答したのに対し、63%が「知人にはそのようなものがない」と回答した。「知人にいる」と回答したのは、比較的高い年齢層に多かったが、大学生にも回答が見られ、所属先のサークル（鉄道研究会）などに女性会員が存在する可能性も示唆した。

つぎに、実際にどの程度女性鉄道ファンがいるのかを見てみよう。

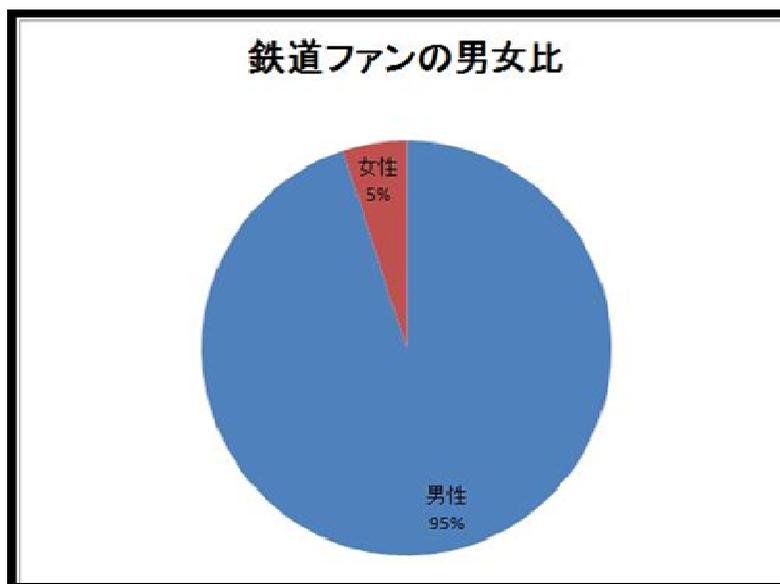


図 2-1-11 鉄道ファンの男女比

ご覧の通り、回答者の 95%が男性であり女性鉄道ファンは 5%に留まった。しかしながら、鉄道ファンからの認知度は絶大で、「知人に女性鉄道ファンがいる」と回答した層が 37%存在するため、このような女性鉄道ファンの活動は男性ファンよりも華やかで、社交性に富むと言えるのだろうか。

(7)鉄道ファンを今後も続けたいか

**回答者全員が「はい」と回答。深い趣味である。**

簡単にではあるが、鉄道ファン実態調査のデータと分析を行った。データサンプルが少ないため、「鉄道ファン全体」の分析と言うよりも、「鉄道ファン実態調査回答者」分析になっている感が否めないが、このアンケート調査で得られたデータを本研究誌では使用していく。